

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たいよう		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 6日		～ R8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	R8年 2月 6日		～ R8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 4日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・低学年の児童が多いため、基本的な生活習慣の定着や対人関係の基礎づくりに重点を置いた支援を行っている。	・対人関係のトラブル場面を想定したロールプレイや場面カードを活用し、「こんな時、どうする?」と考える力を育てている。	・SSTの内容をより体系的に整理し、継続性のあるプログラム作りを進めていく。
2	・送迎時や連絡帳を通じて、保護者との丁寧な情報共有を行い、信頼関係の構築に努めている。	・児童同士のやりとりの中で生じた出来事を振り返り、相手の気持ちを考える時間を意識的に取り入れている。	・職員間で支援事例の共有や検討を行い、関わり方の統一と専門性の向上を図っていく。
3	・SSTを通して、相手の気持ちを考える力や思いやりの心を育む取り組み。今後も丁寧な関わりを強化していく。	・様々な成功体験を積み重ねることで、自己肯定感の向上につながる支援を心がけている。	・発達段階に応じた教材の充実や活動内容の工夫にも取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・低学年児童が多く、感情のコントロールや対人関係のトラブルへの個別対応が増える傾向があり、集団全体への支援時間の確保に課題がある。	・発達段階に個人差があることから、支援内容が個別対応となりやすいことが一因と考えられる。	・SSTの実施内容やねらいなどを明確化し、保護者へ具体的に伝える仕組みを整えていく。
2	・SSTの効果や支援の意図について、保護者への説明が十分でない部分がある。	・日々の支援に重点を置く中で、活動の目的や意図を具体的に伝える機会が限られていることが背景にある。	・個別対応と集団支援のバランスを意識した活動計画をたて、支援時間の確保に努める。
3			・職員間で定期的な振り返りを行い、支援方法の統一と質の向上を図っていく。